

「高知県橋梁会 令和4年度 第1回研修会」報告

高知県橋梁会理事 岡林 弘憲

(公社)土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による令和4年度 第1回研修会が、2022年4月20日(水)に高知市本町にある高知会館の「白鳳の間」で開催された。

研修会では①コンクリート構造物の塩害対策工法、②ロープ1本で世界の平和を守る(特殊高所技術)、③低桁高・長支間の新たな橋梁形式(SPC道路橋)、④橋梁点検のポイントと定量評価導入の勧めの4テーマについて講演を行った。

年度初めの何かと忙しい時期にもかかわらず130名が参加し、非常に有意義な研修会となった。また、研修会の後に定例総会と懇親会(コロナ対策あり)を開催した。

■研修会 (13:30~16:55)

研修会の開催に先立ち右城会長から開催の挨拶があり、コロナ禍にもかかわらず本研修会に定員120名を超える申込みがあったこと、本日の各講師の紹介があった。(13:30~13:35)



右城会長による開会の挨拶

1番目の講演は(株)ピーエス三菱 高知営業所長の深川直利氏から「コンクリート構造物の塩害対策工法(脱塩工法)」と題し、新しい塩害対策工法の紹介があった。

従来の脱塩工法ではファイバー吹付けのリバウンド量が多い、散布水溶液の処理作業とコストが多い、膨大な産業廃棄物の発生、鉄筋量に合った通電管理が困難、専門の技術者と機械による施工など多くの課題があった。

新しい脱塩工法は現場施工の省力化、陽極配置の合理化、確実な通電管理、環境配慮を特徴とし、従来工法の課題を縮小するとともに、同等の脱塩効果

を得ることができた等の説明があった。

(13:35~14:05)



深川直利氏による講演

2番目の講演は(一社)特殊高所技術協会 和田聖司理事長から「ロープ1本で、世界の平和を守る」と題し、ロープを使用したインフラ施設の点検や調査の紹介があった。

現在の会社設立時ロープ調査がスタンダードでないことから、協会の設立、広島と仙台の支店を法人化、NETIS登録などロープ調査業界の拡大に尽力してきた。何よりも安全であることを絶対条件としてきたが、2017年の調査員の墜落事故では幸い一命をとりとめたものの、多くの方に迷惑をかけたこと等、これまでの経緯の説明があった。

また、目標の言語化、できない理由でなくできる理由を探す、結果を決めてから現状との差を埋めていくこと等、これまでの取り組み方の紹介もあった。

(14:05~15:05)



和田聖司氏による講演

3 番目の講演は(株)ケーティービー 技術営業部長の田中光典氏から「低桁高・長支間の新たな橋梁形式 S P C 道路橋」と題し、新しい上部工形式の紹介があった。

S P C 工法は P C 桁の圧縮側に形鋼等を配置して桁高を低くし長支間化を図れ、自重の軽減、架設の容易化など合理的な工法である。F E M 解析や繰返し疲労試験等の実施、委員会を設置して指針と便覧作成を行ったとの説明があった。

また、主桁の製作手順や桁設置状況、外ケーブル緊張状況などの施工実績の紹介もあった。

(15:20～15:50)



田中光典氏による講演

4 番目の講演は愛媛大学大学院の森伸一郎特定教授から「橋梁点検のポイントと定量評価導入の勧め」と題し、橋梁等の損傷事例、点検時の着目点、定量評価の導入等の説明があった。

橋梁点検にあたっては点検の目的、目標、最大リスク、エンドポイントを明確に認識する、構造設計の視点を失わない、劣化損傷のメカニズムを知る、客観化を意識、要領や指針を過信しない、定量的に

評価していくことの説明もあった。

これまでの橋梁損傷事例に基づき、事前点検で鋼材損傷の確認不足、雨水排水処理が不適切、通行重量の増加など、技術的・社会的要因による損傷の説明があった。また、医療業界と同様に建設業界のインフラ点検結果も定量的に評価していくべきとの提言があった。(15:50～16:50)



森伸一郎氏による講演

研修会では参加者が熱心に聴講するとともに、各テーマに対して活発な質疑応答がされた。



熱心に聴講する参加者



質問する参加者

吉田副会長による閉会の挨拶では、本日の講演者や参加者への謝辞、次回研修会の開催予定、講演内容の募集、今回の研修会をもって副会長を交代することの報告をいただいた。(16:50～16:55)



吉田副会長による閉会の挨拶



岡林理事による司会

■定例総会(17:00～17:30)

研修会終了後に同会場で定例総会を開催した。正会員56社のうち38社の出席があった。

定例総会では令和3年度の事業報告・収支決算報告・監査報告、令和4年度の事業計画・収支予算案、役員改選等が満場一致で承認された。

役員改選では森下副会長、友田書記理事、岡林HP運営理事の新任、小山田理事から清水理事への交代、吉田副会長の退任を承認された。

■懇親会(17:30～19:30)

定例総会終了後に会場を「飛鳥の間」へ移して、参加者41名で懇親会を開催した。右城会長による開会の挨拶の後、愛媛大学の矢田部先生による乾杯の音頭で懇親会を開始した。

懇親会では高知県のコロナ対策に基づき、参加者

全員に対してワクチン3回接種確認、もしくはPCR検査や抗原検査の陰性確認を行った。



右城会長による開会の挨拶



矢田部先生による乾杯の音頭



森下副会長による中締め

■あとがき

研修会は130名と多くの皆様に参加をいただきました。高知県橋梁会では研修内容を充実し、有意義な研修会になるよう活動を続けてまいりたいと思います。今後も会員会社の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。